



第18号

発行所

久慈地区

保護司会

常陸太田市町田町163-1



ライトアップされた袋田の滝（撮影 保護司 出村 尚英）

久慈地区保護司会の皆様におかれましては、久慈地区の安心・安全のため、保護司活動にご尽力をいただき深く感謝申し上げます。また、今年度73回目を迎えました「社会を明るくする運動」では、7月に保護司会大子支部のご協力のもと、町内街頭キャンペーンを実施できましたことに感謝申し上げます。

さて、国におきましては、第二次再犯防止推進計画が策定され、新たな計画に基づき国や地方公共団体が一体となつて再犯防止に向けた取り組みをより一層力強く推進していくことが重要とされており、大子町におきましても、11月に大子町被害者支援連絡協議会が開催され、茨城県犯罪被害者等支援計画に基づく被害者支援について検討が進められたところであります。協議会では、副会長であります医療法人直志会袋田病院の場院長から「犯罪被害者の心の傷について」をテーマにご講演をいただきました。精神科医として、被害者にみられる感情的問題等を詳しくお話いただきましたが、その中で「言葉も大切、それ以上に大切なのは、被害者にどう向き合うか」とのお言葉がありました。「被害者に人として向き合ってもらえたと感じてもらえるよう、支援者はどう寄り添っていくか」。非常に難しいことではありますが、支援をする側は常に意識しなければならぬと感じたところであります。

保護司活動は、犯罪や非行をした人が再び罪を犯すことがないよう、立ち直りを地域で支える活動ですが、地域社会の一般住民にとつては、ともすれば、その内容から忌避されがちであるとも言えます。この大変な活動を、保護司が無給のボランティアで行っていることも、あまり認知されていないのが現実であります。保護司が地域の安心・安全に寄与されていることを周知することは、地方公共団体としての責務であると深く認識して、私達もより一層の町民サービスの向上に努めていくべきと再認識しています。

最後になりますが、久慈地区保護司会の益々のご発展と、日頃の保護司活動に敬意を表し、今般の挨拶とさせていただきます。



大子町長

高梨 哲彦

ごあいさつ

茨城県に帰って参りました



水戸保護観察所

所長 小出 有三

久慈地区保護司会の全ての保護司の皆様方には、平素から更生保護諸活動に御尽力を賜り、深く感謝申し上げます。今年度の異動により水戸保護観察所長を拝命いたしました。茨城県での勤務は、約10年ぶりであり、懐かしいお顔を拝見させていただいた保護司の方も複数おり、心強い気持ちで一杯であります。

さて、先頃の警察庁発表によると、令和4年中の刑法犯認知件数は20年ぶりに増加に転じたとのことであり、コロナ明けで社会全体が活動的になってくる今後の犯罪や非行の動向については留意していく必要がありますし、背景にある孤立などの生きづらさの問題についても引き続き取り組みを強化していかなければなりません。そうした状況の中で、更生保護法等が一部

改正されました。その中心的なテーマは、「地域に貢献する更生保護」であります。犯罪をした者等の改善更生や犯罪の予防のため、地域住民又は関係機関等からの相談に応じて、情報の提供や助言等を行う「地域援助」を行って参ります。

また、支援が必要な者を地域の支援機関や団体につながることを可能とする地域支援ネットワークの構築に努めて参りますので、一層のお力添えを賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

ところで、久慈地区の保護観察事件は、令和5年11月現在、5件、生活環境調整事件は、9件となっております。事件数自体が少なく、安全安心な状況と言えます。また、保護司会については、会長を中心として、まとまりがあり、全体的な雰囲気は和やかである印象

を受けます。

今年度は、社会を明るくする運動を始めとした諸活動において、これまで以上に思い切った活動が出来たものと確信しています。皆様方におかれましては暫くぶりの活動となりますので、健康にしっかりと留意しながらお互いに乗り切つ

会長就任にあたって



久慈地区保護司会

会長 森 一史

令和五年度の地区総会におきまして、皆様のご推挙をいただき会長に就任いたしました。日々、改めてその職責の重さを痛感し身の引き締まる思いであります。もとより微力でございますので、皆様方のお力添えをいただきながら職責を果たして参りたいと存じます。

就任後、間もなく一年が過ぎようとしています。これまでコロナ禍のために多くの事業が中止となつて参りましたが、非常事態が解

ていきたいと存じます。

結びになりますが、久慈地区保護司会のますますのご発展とご健勝を祈念するとともに、渡邊主任官を始め当職も一生懸命精進する覚悟で参りますので、重ねて、よろしくお願い申し上げます。

除され、今年度からは、通常通りの総会や定例研修などの行事が行えるようになりました。その間地区内の保護司の皆さんをはじめ関係者の方々の温かいご指導・ご支援のもとに地区保護司会の運営と各種事業の推進に努めて参りました。

お陰様で各種事業も順調に展開しており、感謝申し上げます。特に前会長の仁平忠良様の気配りと丁寧な指導には、改めて敬意と感謝申し上げます。

久慈地区は、県内でも犯罪が少ない地域、対象者の少ない地域といわれております。これも保護司の皆様方一人一人の努力の賜物ではないかと思っております。犯罪や非行のない明るい社会・地域づくりはそこに住む人々の願いであります。しかしながら、犯罪件数が減少しているにもかかわらず、再犯率が増加している課題も依然として残っております。

これに対しては、私たち保護司の役割をより一層重要視して、積極的な取り組みが求められています。

地域に住む人々が、ふれあいを深めると共に家庭や学校、地域住民が互いに連携を密にして、力を合わせていくことが重要です。

犯罪や非行のない安心・安全な地域作りのために久慈地区保護司会が力を合わせて、その役割を果たせるよう努力して参りたいと存じますので、今後も一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

おめでとーございます

令和五年度 表彰の栄に浴した方々

11月7日(火)、水戸市ザ・ヒロサワ・シティ会館にて、第62回茨城県更生保護大会が開催されました。コロナ禍を挟み4年ぶりにリアルで開催できた感慨も

あつて、会場は、小澤姉妹によるピアノデュオの演奏と、晴れやかなムードに包まれました。次の方々が表彰の栄に浴しました。



ザ・ヒロサワ・シティ会館にて

誠にめでとーございます。

全国保護司連盟理事長表彰

森 一史 (常陸太田)

豊田 明 (常陸太田)

(保護司家族功労)

仁平由利子 (大 子)

関東地方更生保護委員会委員長表彰

岡部 芳雄 (常陸太田)

菊池 章夫 (大 子)

佐々木孝雄 (大 子)

涌井トシ子 (常陸太田)

関東地方保護司連盟会長表彰

岩間 克則 (常陸太田)

日座 睦子 (常陸太田)

水戸保護観察所長表彰

木村 千明 (大 子)

鈴木 洋一 (常陸太田)

茨城県保護司会連合会会長表彰

大森 勝夫 (大 子)

水戸保護観察所長感謝状

(保護司家族功労)

豊田 道子 (常陸太田)

白石 泰子 (常陸太田)

茨城県保護司会連合会会長感謝状

(更生保護女性会員)

神永 春美 (常陸太田)

小室たまえ (常陸太田)

茨城県更生保護女性連盟会長表彰

鈴木 詠子 (大 子)

鈴木 静子 (常陸太田)

全国保護司連盟理事長表彰を受賞して

夫婦協力し合って

豊田 明



11月7日(火) 第62回茨城県更生保護大会が水戸市ザ・ヒロサワシティ会館で開催され、私が全国保護司連盟理事長賞、家内が水戸

関東地方更生保護委員会委員長表彰を受賞して

岡部 芳雄



去る11月7日、第62回茨城県更生保護大会において関東地方更生保護委員会委員長表彰を受賞致しました。これも多くの方々のご指導のお蔭と感謝申し上げます。平成26年に保護司を拝命

保護観察所長感謝状(家族功労)を受け、身のひきしまる思いをいたしました。現在20年を過ぎ、色々な行事に参加し「犯罪予防」「社会を明るくする運動」に取り組み活動致しております。更生保護活動の一つに、賛助会員様にもたくさんのお力添えをいただいております。皆様の御理解と御協力を得ての受賞と大変感謝致しております。今後共、皆様の御健勝を祈念し、受賞の挨拶といたします。ありがとうございます。

以来、今日まで保護司としての役割を担ってこれたのも、保護観察所をはじめ保護司会連合会並びに更生保護に携わる皆様方の温かいお力添えの賜物と考えております。未だ対象者と接する時に信頼関係を築けるか不安な気持ちになります。まだまだ保護司として未熟であり微力ですが、保護司の使命の重さを感じながら犯罪や非行のない住み良い地域づくりのため、更生保護活動に微力を尽くしてまいりたいと存じますので、皆様方の一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

関東地方更生保護 委員会委員長表彰を 受賞して

菊池 章夫



この度の第62回茨城県更生保護大会において思いもよらぬ表彰をいただき、大した活動もしてこなかったのになあと恐縮しています。

ただ、顧みますと五十数年前、高校を卒業し地元役場に奉職したのと同時に知り合いの保護司さんからBBS会の紹介を受け、会が解散するまでの十数年間活動したことで、また、役所においては教育委員会で社会教育課(現・生涯学習課)や学校教育課といった青少年育成等にかかわる部署にも所属し、福祉課時代には保護司会担当の部署でもあり、活動等に直接かわつてきたことを思い出している次第です。そのような縁があつてか、退職直後に保護司を拝命することとなり現在に至っておりますが、まあこれからももう少し貢

献しろよ、という意味での表彰かと拝察いたします。

佐々木孝雄



令和5年11月7日、第62回茨城県更生保護大会において、関東地方更生保護委員会委員長表彰を受賞したことは大変光栄なことであります。

保護司を拝命して約9年、久慈地区保護司会の諸先生方のご指導を受け現在まで努めてまいりました。保護観察・環境調整など殆んど関わることなく、会の活動も諸先輩保護司先生方の後をついてきただけなのにと思いつつ、これからもこの賞に恥じないよう保護司活動に精を出し、頑張っていきたいと思ひます。

涌井トシ子



保護司になつて9年目になりましたが、いつも戸惑

い悩みながら行つてきました。それでもやっていられるのは、指導・助言していただける担当保護観察官と愚痴を聞いてくれる保護司仲間がいることで、私にとつてとても心強い存在です。

短い保護観察の期間に対象者が落ち着いた生活を取り戻した時は、関係者と喜び、再犯してしまつた時は、保護司の役割の重さを考えさせられ自信を無くします。それでも対象者が新たな良いつながりを作り、社会で強く生きていけるように、これからも超微力ではありますがお手伝いしたいと思つております。

関東地方保護司連盟 会長表彰を受賞して

岩間 克則



この度、令和5年11月7日、ザ・ヒロサワシティ会館にて第62回茨城県更生保護大会において関東地方保護司連盟会長表彰を受賞することができました。

平成29年3月に保護司の委嘱を受け、なんとか六年間保護司を務めることができましたのは、久慈地区保護司会の諸先生をはじめ、多くの方々のご親切、ご丁寧なご指導の賜物と感謝申し上げます。

振り返れば、当時何もわからない自分に、親切で丁寧な対応をいただき、緊張が薄らいだことを覚えていきます。

当時の支部長・前島昭夫先生には、厳しさの中にも温かなご指導を賜りました。なかでも、昼の部以外にも夜の部の研修の時間は、楽しく充実した時間を過ごすことができました。特に刑務官としての体験談が興味深く、印象深いものがありました。感謝申し上げます。

この受賞を機に、犯罪や非行の絶えない社会に、今後とも保護司として微力ながらも貢献してまいりたいと存じます。

今後とも久慈地区保護司会の皆様方、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日座 睦子



この度、関東地方保護司連盟会長表彰を受賞するにあたり、久慈地区保護司会の諸先生方や保護観察所の皆様方のご指導、ご協力に深く感謝いたします。

初めて向き合った対象者は、高校中退の17歳の少女でした。うつむき加減で目を合わせず、不安な気持ちでいた彼女でしたが、面接を重ねる度に自分のことを話してくれるようになり、保護観察が終わる3月のある日、「保護観察卒業おめでとう。よく頑張ったね。」と赤いチュウリップを渡しました。高校卒業式を経験出来なかつた彼女へのプレゼントでした。その時、彼女は顔を上げ、笑顔で私を見てくれました。無事に終わった時の清々しさを感じました。人は、人生の中で多くの人と触れ合いながら成長していきます。対象者と温かな関係を築き「あなたは一人じゃない。応援しているよ。あなたはこんな良い所があるよ。」と声を掛け

続けていきたいと思います。

水戸保護観察所長 表彰を受賞して

木村 千明



この度、水戸保護観察所長表彰を受賞致しましたことは、身に余る光栄と感謝申し上げます。

私は、保護司の先生に推薦を頂き、平成30年5月に保護司を拝命し5年を経過しました。当初、年に何回か研修がある程度で、それが大変ではないということとで安易に考えていました。が、水戸の生涯学習センターでの研修、地区の定期研修、社明運動にかかわる行事やその他の会議と、想像以上に出席回数が多いのに驚きました。

そうこうしているうちに保護観察を担当することになり、初めてのことで不安でしたが、先輩の保護司の先生と二人で担当ということで、色々とアドバイスを頂きながら、ほぼ順調

に面接を進めて行きました。が、ある日の面接で時間になっても来ないので電話をかけると、今警察署にいるとのこと、え、何？どういうことなのか理解できずにいたが、つい葉に手を出してしまつて、また捕まつたという。今まで親身になつて話を聞き、時には叱咤激励をしてきた今までは何だったのか、しばらく自分に問う日々が続く、一度過ちを犯してしまつたと更生するのは簡単なことではない。ではどうすればいいか、これから先もこの答えは出ないかも分かりませんが、保護司として精一杯自分の出来ることを問い求めている。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

茨城県保護司会連合会 会長表彰を受賞して

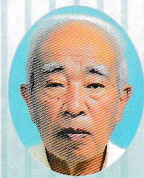
大森 勝夫



私が保護司として務まるのだからかという不安を抱

えながら、保護司を拝命したのが令和元年7月でした。町議会議員の職務と重なり、行事に参加協力できない日も多々あることには心苦しい思いを持っています。

保護司としての責務を果たせるには、寛容の心を持ち、深い洞察力と的確な助言を与えられる人格者でなければ務まらないのではないかと、自身の未熟さを叱咤したくなる感情を持つこともあります。この葛藤を前向きにとらえ、自



退任のご挨拶

斎藤 徹

令和5年3月を以つて16年間の保護司を退任いたしました。長いようであつたという間でしたが、久慈地区保護司会の先生方、また関係機関の多くの皆様にご指導、ご教示を頂き職責を勤めることができました。心より感謝申し上げます。

平成19年、公私共にお付き合ひのある保護司の先生からお誘いを受け、保護司と言う呼称は聞いておりましたが、当時はまだ保護司活動について重要性は低く、あまり口外もされず知る由もなく迷いましたが、

己を磨くことが世のために貢献できる機会になると考え、向上心の支えにするべきだろうと思うようになりました。

定期研修などで学ぶことは、保護司活動についてだけでなく、自己の人格形成に結びつく研修だと感じます。保護司としての実務は、まだ環境調整しか経験していませんが、日頃から人格形成の修練が大切であると、表彰を機に思いを新たにしました。

妻に「お父さん、ボランティア活動を考えても良い年齢ではないですか」と強く背中を押されお引き受けいたしました。

支部では協力組織部に配属になり、協力雇用主の開拓や訪問が主な役割でした。

出所者の再犯率は五割、再犯率のうち七割が無職、約二割が住居不足で出所後の住まいと職の確保が再犯防止に欠かせない重要課題になっておりますが、現状は厳しい状況です。

県内約500の事業者（協力雇用主）の内、実際に雇用

している事業者は50社ほどで、雇用されている出所者は40名と言われています。対象者の就労は会社の事情や事務所出所者というハンデ、仕事とのミスマッチ等により登録している会社と比べ実際に雇用実績のある会社が少ないのが現状です。

犯した罪を反省し、これから頑張つて働かなければいけないと言う出所者の思いは強く大きいはず。出所者への就労支援と居場所確保が再犯防止に欠かせない要素であることに間違いありません。住まいがあつて、寝て、起きて、ご飯が食べられる普通の生活がいかに恵まれているか、と痛感させられた保護司活動でした。

職歴の違う先生方と出合いお知り合いになれたこと、視察研修や様々な活動を通して多くの事を学び経験させて頂きました。

私のこれからの人生において貴重な宝物になりました。ありがとうございます。久慈地区保護司会の益々のご活躍と皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りし退任の挨拶とさせていただきます。

長い間、お世話になりました。

各部会の取り組み

総務部会

保護司会の運営や組織の活性化を 城石加代子

総務部会の役割としての保護司会の運営や組織活動の活性化を目指して、部員八人が協力して事に取り組んでいます。

久慈地区保護司会定例総会

5月31日

常陸太田市商工会館

多くのご来賓の方々のご臨席をいただき開催することができました。

理事会・役員会

4月25日

水府支所大会議室



定期駐在による情報交換

監査会

4月25日

サポートセンター

定期駐在

6月9日・7月7日・

10月13日・12月8日・

6年2月9日

賛助会員募集

保護司会の活動にご支援をいただいている企業や個人の方々に感謝を申し上げます。

・賛助会員

常陸太田支部

52件

太子支部

36件

・水戸保護観察所長感謝状

受賞事業所・個人

30年継続 横浜ゴム株式

会社DIPARC様

20年継続 大高照美様

10年継続 川又幸子様

和典典子様

第62回茨城県更生保護大会

11月7日

ザ・ヒロサワ・シティ会館

今年度は110人規模と参加

人数も増えて、アトラク

ションや表彰が行われま

した。

研修部会

研修会に積極的な参加を

佐々木孝雄

5月より新型コロナウイルス感染症の5類移行により、通常の観察官定例研修が出来る様になり、今年度から久慈地区保護司会担当の渡邊佑太保護観察官による定例研修が7月に第1期「しよく罪指導プログラム

について」9月に第2期「性犯罪再犯防止プログラムについて」12月に第3期「面接について」の定例研修が行われました。コロナ禍での研修は、座学で殆ど聞くだけでしたが、観察官からのテーマ説明その後はロー

犯罪予防部

社会を明るくする運動の実施を

佐川憲一郎

今年度も、犯罪や非行のない明るい社会を作るべく、「社会を明るくする運動」を始め、犯罪予防活動等を進めてきました。

【久慈地区】

第34回樹輪 親父の出番

親子木工教室

令和5年6月18日

暑い日でしたが親子が頑張つてメダカの飼育箱を作りました。

【常陸太田支部】

第73回社会を明るくする運動(以下社明運動と記す)常

陸太田市推進委員会

6月19日

宮田市長を委員長とする推進委員会を開催し、今年

度一年間の取り組みについて協議しました。



社明運動キャンペーン (常陸太田支部)

杜明運動キャンペーン

7月26日

市立瑞竜中学校の生徒30名を含む11団体総勢125名が参加しました。大型商業

ルプレイング手法を用い座学で学んだ知識を活かし問題点や解決方法を考える研修で、対象者とあまり関った事がない保護司の方には有意義な研修でした。

また、定例研修以外に地区研修の一環として施設の視察研修を予定しておりましたが、視察先の都合により中止になりました。

施設3店舗の駐車場等で、ティッシュ等の用品を配布しながら啓発活動を行いました。

杜明運動作文コンテスト審査

市内小学校から81点、中学校からは131点の応募がありました。支部の保護司14名で審査し、小学生の部4点、中学生の部7点を県に推薦しました。県での結果は残念ながら入選はありませんでした。

あいさつ声かけ運動

令和5年11月8日

常陸太田駅前での実施は荒天により中止となり、翌日中城町交差点において行いました。

【太子支部】

第73回杜明運動太子町推進委員会

6月21日

会議に先立ち、岸田総理大臣からのメッセージを出村尚英支部長が朗読し、委



社明運動キャンペーン（大子支部）

員長高梨哲彦大子町長に伝達しました。委員会は、町長、支部長の挨拶の後、実施要綱や具体的な取り組みについて協議しました。参加者は、大子町、久慈地区保護司会大子支部、大子警察署、更生保護女性の会、青少年相談員連絡協議会、薬物乱用防止指導員ひたちなか地区協議会、民生委員児童委員協議会、人権擁護委員協議会、大子ロータリークラブ、常陸大子ライオンズクラブ、町学校長会、大子清流高等学校、県少年指導委員大子支部の代表者でした。

社明運動街頭キャンペーン
7月12日
関係機関・団体の代表者等26名の参加のもと、2グ

今年度、広報部は6名のメンバーで活動をスタートしました。活動内容は主に、広報誌「更生保護久慈」の作成です。

はじめは、紙面作りの素人が「広報」として久慈地区保護司会の活動を広く報せる（しらせる）ためにはどのような紙面を作ったら良いのか、思いあぐねるばかりでした。

何度も部会を開き、歴代部長の資料を基に掲載内容、文字数や配置を細部に

広報部

親しまれる広報誌づくり

近津 春美

わたり検討しました。慣れない作業のため写真やレイアウト等を整えるにも時間がかかりましたがメンバー全員が思いを一つにして奮闘し、この広報誌を発行することができました。

そして、手渡し、郵便、ポスティング、掲示といった様々な方法でこの広報誌に書かれた保護司会の活動情報や思いをより多くの方に伝えることが出来たら幸いです。

最後に、御寄稿頂いた方々、

協力組織部

協力雇用主へ理解と協力を

古川 正美

協力組織部は各地区保護司会に設置されている活動組織の一つで、刑務所出所

者や保護観察対象者をその事情を承知の上で雇用すること、更生保護活動に協

ループに分かれて町内の大型商業施設の駐車場等で買い物客などにチラシ・ティッシュ等を配布し啓発活動を行いました。

社明運動作文コンテスト選定会議
9月8日
大子町役場会議室において、小学校15点、中学校59点の応募があり、大子支部

保護司8名が規定に基づき選定し、県に小学校1点、中学校3点を推薦しました。応募した小中学校児童生徒全員にお礼のメッセージを添え記念品を届けました。

「社明運動」につきましては、大子町役場福祉課のご指導ご協力に感謝申し上げます。



広報部会

広報誌に携わってくださった方々に心より感謝申し上げます

力して頂いている「協力雇用主」との連絡・調整等を主な業務としております。

久慈地区保護司会においては常陸太田・大子両支部併せて21の事業所が「協力雇用主」として登録されておりますが、毎年各事業所に対し日頃の更生保護活動への協力に感謝し、また今後の保護司会との連携強化を図る目的で文書を送付しております。

本年度も例年通り各事業所に対し謝意を表した文書と共に、更生保護カレンダー（卓上用）及び広報誌「更生保護久慈」を同封して発送いたします。

サポートセンター活動

城石加代子

サポートセンターは平成29年7月に開所し6年目を迎え、会議や交流の場所として機能しています。

サポートセンター運営委員会
4月25日水府支所大会議室
委員長・副委員長・庶務・会計・委員等11人で構成しています。

企画調整保護司会議

6月20日水府支所大会議室
保護司23名でサポートセンターの当番を行い問題点や改善策について検討を行い使用し易いサポートセンターを目指しています。

保護観察官との情報交換

定期駐在の午前中にサポートセンターで実施しています。保護観察中の事案について観察官や経験ある保護司と直接相談できる機会として利用されています。

6月9日・7月7日・
10月13日・12月8日・
6年2月9日
サポートセンターだより発行

第23号 6月8日

第24号 7月3日

第25号 8月10日

第26号 11月14日

サポートセンター開館日

月 火 木 金

午前10時～午後4時

（水・土・日・祝日・年末年始は休み）

ドキュメンタリー映画『記憶2』完成試写会

少年たちは、加害者の前に被害者だった

保護司 鈴木洋一

昨年、暮れも押し詰まった渋谷でドキュメンタリー映画『記憶2』少年たちの追憶と贖罪〜完成試写会が開催された。

この映画は、3年前のコロナ禍の中、大子町で上映した、女子少年院の実像に追った映画『記憶』の続編である。本作品では、少年たちが事件を起こすに至るまでの背景に迫ると共に、少年院で初めて出会った信頼できる大人(法務教官)に出会い、やり直しを誓う。在院中や出院後の少年たちの本音に、中村さえこ監督は耳を傾け、丁寧に聞き出



していく。途中、事件のあらましや家庭の生活の様子などの再現ドラマも挿入されており、より実像に迫る内容となっていた。

非行に走った多くの少年の背景には、幼少期に受けた「小児期逆境体験」があるという。家庭にも、学校や地域にも、居場所のない子どもたちは、劣悪な社会環境の中で、いつしか罪を犯していくのである。そうした状況の中、少年院に送致された少年は「初めて信頼できる大人に出会った。」と語る少年がいた。しかし、少年院を出ると、その信頼

関係は途絶えてしまう。出院後も、信頼できる大人との繋がりが持てると共に、気軽に相談をすることが出来る支援制度などの施策が急務であると感じた。家に戻った少年たちも、家庭環境によつては、自分の気持ちを理解してもらえず、苛立ち、焦りから再び間違った判断をしてしまうからだ。

さらに、自己肯定感の低い子どもも多くは、一度過ちを起こすと、犯罪意識も薄れ、二度三度と犯罪を繰り返す。そんな中で落ちてしまふのである。そして、「どうせ自分なんか生きていてもしょうがない。」と、自己の存在までも否定してしまうことになる。

出院した、ある少年が語る場面で、「甘えたかった。」そして「愛されたかった。」と……。涙がこぼれ落ちた。

上演後の舞台あいさつで、中村監督は、前作のドキュメンタリー映画『記憶』の企画を十年前に立ち上げたことに言及した。少女たちは「ちよつとしたボタンの掛け違いの記憶」は、苦痛を伴う人生の遺産であると同時に、未来へ向けてのヒントであると語った。

私も、本映画の中に登場する少年たちとの出会いで感じたことを、永遠に記憶

しておきたい。そして、少年たちにとって、生きづらいい世の中を変えていかなければならないと思った。さらに一般の人たちにも、本映画を観ることで、苦悩を抱えた少年たちの心の叫びを記憶してもらいたいと思う。そのためには、様々な団体と連携して、県内各地で上映会を開催し、今後の更生保護活動に活かしたい。

保護司の異動

● 退任 斎藤 徹(大子)
● 新任 神長智恵美(大子)

ゴミニ唐辛子

岩間 克則

「ゴニシはあんまし

からがね〜ね〜」我が家の畑には、福来蜜柑の木があり、ここ数年その皮を天日干しをして七味唐辛子風をつくって知り合いにおすそ分けをしています。できるだけ無農薬・有機栽培をめざし、一時は胡麻栽培を試みましたが、不作で断念し、アオサや胡麻は購入し、それぞれの配合

を調整して、辛みの好みを探っています。しかし、麻やけしの実が手に入らず、現在もまだ五味唐辛子です。

あとがき 続・五味唐辛子

久慈地区保護司会の広報誌を作成する段階で皆さんと話し合い、どの様な広報誌が良いのだろうか、久慈地区らしい広報誌とは、今まで保護司として長い付き合いであったが皆さんの意見を聞いたり、顔を見て話す機会がないことに気付きました。今回の広報誌は七味まで、あじを出すことができません。でも編集にあたり、保護司の先生方はすばらしい隠れた力の持ち主であること、一人一人の大事なことを知ることができ、七味を味わうことができました。もつと、もつと、保護司間の交流があつても良いのではと感じました。(菊池記)

広報部員

近津 春美(大子)
白石 敬雄(常陸太田)
赤須 通重(常陸太田)
岩間 克則(常陸太田)
岡部 智子(常陸太田)
菊池 均(大子)